

1. 総評

(1) 年度初めの学校の状況 【学校の現状及び前年度の成果と課題】

〔学校の現状〕

○児童について

素直で与えられたことには一生懸命に取り組む。自己の将来に夢や希望をもち、自らを高めていこうとする意欲や態度を育てていく。区の学力調査からは基礎的・基本的な学習内容の定着が不十分であることが分かる。学力向上への取り組みを今後も工夫改善していく。

○教師について

本校新規採用教員や教職経験の浅い教員（6年未満）が教員の約5割である。その活力を生かしながら、実践的で確かな指導力・授業力を育てていくことが急務である。

○保護者・地域について

地域の方々は教育活動に理解を示し、ボランティアやサポーターとして積極的に協力している。放課後子ども教室事業としての「中川東きらりクラブ」も定着し、連携も深まっている。今後も地域やPTAとの連携をさらに深め、地域に育つ児童の育成に励んでいく。

〔前年度の成果と課題〕

○教員の指導力を高め、児童の学力・体力の向上を図る。

管理職による授業観察・教科専門指導員による巡回指導・校内研究による研究授業など授業公開を多く設定することで、指導力は向上している。また、基礎的・基本的な学習内容の定着はパワーアップタイムの継続と放課後花丸教室・特別花丸教室により成果が表れてきた。今後はさらなる基礎学力の定着を図ると共に、児童の意欲や理解をより高めるような授業改善に取り組む。さらに思考力・表現力も高める授業改善に取り組む。

体力向上に向けた業間体育「元気アップタイム」を6種目から12種目に増やし、より意欲的に体力向上に取り組む工夫をした。

○児童がより安全に、安心して学ぶことができる環境を確立する。

いじめ防止対策委員会を機能させると共に、いじめ相談箱の定期的点検・HyperQ-U検査を通していじめの早期発見・早期解決を図ってきた。また、計画的な安全指導・安全点検後の迅速な改善・危機管理マニュアルを活用した訓練等の実施により安全への最大限の配慮を尽くしてきた。校内での怪我発生状況を調べたり、避難訓練による反省を生かしたりしながら、さらに安全への管理を検討していく。

○保護者や地域と共に子供を育む学校づくりを進める。

保護者アンケートをもとに各取り組みの見直しや改善を図ってきた。また、保護者には家庭学習への協力をよびかけ連携して取り組んだことで、家庭学習の定着が見られる。地域とは「開かれた学校づくり協議会」を中心に連携を図ってきた。様々な活動が地域や保護者に広く浸透してきている。

(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組の概要**重点的な取組事項－1 児童の学力向上を図る。**

- 第十二中学校・大谷田小学校・長門小学校との小中連携による授業力・専門性の向上
- 板書計画・ノート指導の改善、補習教室・そだち指導の充実、足立スタンダードによる授業の徹底
- 楽しく、挑戦したくなる授業の創造、校内研究の充実、巡回指導による若手教員の育成、OJT研修の充実
- 家庭学習に対する保護者の意識の向上と啓発

重点的な取組事項－2 児童がより安全に、安心して学ぶことができる環境を確立する。

- いじめのない学校生活の充実 いじめ防止対策委員会・いじめアンケート・いじめ相談箱
- 安全・安心な学校の充実 日常の校内巡視と毎月の安全点検による校舎内外の整備
- 子供の心を育てる生活指導・特別活動の充実 縦割り班活動・道徳教育の充実、挨拶運動の活性化

重点的な取組事項－3 保護者や地域と共に児童を育む学校づくりを進める。

- 保護者との共育体制の確立 授業参観・保護者会の内容充実、PTA活動の活性化
- 開かれた学校づくり協議会を中心とした協働体制の確立 各学年行事へのゲストティーチャーとしての参加、「あだち放課後子ども教室」（「中川東きらりクラブ」）、サタデースクール、図書ボランティア
- 子供の夢を育む周辺教育施設との連携体制の確立 おおやたこども園・大谷田第一保育園・大谷田第二保育園・第十二中学校・東京都立足立東高等学校・図書館・郷土資料館・住区センター・生涯学習公社

(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－１ 児童の学力向上を図る。

(成果)

- ・区学力調査 目標通過率 77.9%を達成 昨年度比 1.1%△ (目標 80%)
- ・校内研究 (社会科・生活科) による教員の授業力の向上と組織的研究のレベルアップ
- ・第十二中学校・大谷田小学校・長門小学校との小中連携を通じた授業力と専門性の向上
- ・足立スタンダードによる若手教員の授業スタイルの確立 (国語・算数)
- ・そだち指導 (第3・4学年対象児童) の充実による個に応じた学力の底上げ
- ・パワーアップタイム (朝学習)・花丸教室 (放課後補習教室) の徹底実施、全教職員による組織的取り組み
- ・家庭学習カードの内容や活用方法の工夫による家庭学習の習慣化と意欲の向上
- ・MIM の取り組みによる特殊音節を効率的に活用した指導の継続
- ・児童の学力推移や弱点を学力ポートフォリオにより把握、授業改善に活用

(課題・解決の方向性)

- ・新学習指導要領の理念を全教職員で理解し、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善に努める。
校内研究の充実・小中連携の充実・区や都の研究会への積極的な参加
- ・足立スタンダードのさらなる定着とスタンダードにとどまらない授業展開の追究
- ・学力ポートフォリオを活用した補習教室の指導内容の精選と指導体制の強化
- ・家庭学習に対する保護者の意識の向上と自主学習の定着と充実

重点的な取組事項－２ 児童がより安全に、安心して学ぶことができる環境を確立する。

(成果)

- ・定期的即時的ないじめ防止委員会の開催で、いじめの未然防止・早期発見に努めいじめ解決率 100%を達成
- ・特別支援コーディネーター・スクールカウンセラー・SSW・各関係諸機関との連携を深め、課題解決
- ・日々の施設点検及び毎月の安全点検・施設課との連携による校地内外の修理・整備の推進
- ・校舎外壁の改修工事・トイレの洋式化への改修工事・体育館照明工事が無事完了

(課題・解決の方向性)

- ・特別支援教室 (「コミュニティ中東」) 開設 3 年目に向けた指導の充実と諸条件の整備
- ・創立 40 周年に向けた教育環境のさらなる充実
- ・縦割り班活動を中心に据えた特別活動計画の見直しと活動の充実

重点的な取組事項－３ 保護者や地域と共に児童を育む学校づくりを進める。

(成果)

- ・開かれた学校づくり協議会・PTA との連携による各学年授業への支援の充実
- ・おおやたこども園・大谷田第一保育園・大谷田第二保育園との教員・子供たちの交流を通して、共通理解を図り円滑な就学につなげた。
- ・幼保小中高という 18 年間の長い成長スパンをもった交流を地域レベルで展開

(課題・解決の方向性)

- ・近隣教育施設等との交流・連携のあり方の見直しとさらなる強化
- ・地域の有能な人材の確保と活用及び人材リスト化

(4) 保護者や地域へのメッセージ

本校は、若い教員が多く元気いっぱいの学校です。その若手教員を育てるベテラン教員たちも教育愛にあふれています。「チーム中川東」として一つにまとまり、子供たちの視点を大切にしたい教育を推し進めています。中川東小学校では、一人一人の子供たちが大切に育てられているのです。児童数 303 名と決して大きくはない学校ですが、その利点を生かし、一人一人が最高に輝けるよう日々の教育活動がきめ細かに営まれています。

「教師は授業が命」です。教員は日々、子供たちの「分かった」「できるようになった」という笑顔が見たくて、教材研究に余念がありません。校内研究・小中連携も熱心に行われ、各教員は授業力や専門性の向上に努めています。都や区の研究会に積極的に参加する教員も多く、研鑽を積んでいます。若く経験は少なくとも「教師魂」にあふれた教師集団と言えると思います。

本校では、さらに、人とのかかわりを大切に育んでいます。縦割り班活動における全校児童の仲のよさは特筆に値します。上級生が下級生に優しく接することがあたりまえにできている学校です。一

一人の子供たちにとって学校が居心地のよい場であるように、いじめの防止にも力を入れています。いじめはどの学校にも起こり得るものとの認識に立ち、いじめ防止委員会を機能させ、いじめの未然防止・早期発見・早期解決に努め、いじめ解決 100%を達成しています。

本校は、地域の温かさに包まれている学校でもあります。「開かれた学校づくり協議会」「PTA」を中心とした地域・保護者の方々に見守られ、子供たちは安全で安心な学校生活を送ることができています。各学年への授業支援・登下校における安全確保等にとどまらず、サタデースクールや PTA「きらり祭」等は子供たちにとって地域の方々との世代を超えた交流の場にもなっています。まさしく子供たちが地域によって育てられていると実感するところです。

本校は平成 31 年度には、創立 40 周年を迎えます。今年度は、大規模改修として校舎外壁工事・トイレ洋式化工事（次年度も継続）が完了し、リニューアルした校舎の全容が姿を現しました。区とも相談を重ねながら、周年に向けた教育環境整備を行ってまいります。

今年度は HP（ホームページ）の更新にも力を入れ、情報発信に努めてまいりました。地域・保護者の皆様におかれましては、学校行事や学校公開・PTA 行事等に是非おいでいただき、子供たちの「きらり」輝く姿をご覧いただけたらと思います。きっと中川東小学校の子供たちの、まっすぐで一生懸命なよさに出会えるはずです。

2. 平成 29 年度の重点的な取組事項

＜達成度 ◎：十分に達成 ○：おおむね達成 △：達成せず ●：課題が残る＞

重点的な取組事項－1 児童の学力向上を図る。

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
児童の学力向上を目指す。	区学力調査 通過率 80%以上 を目指す。	4 月区学力調査 目標通過率 77.9% 昨年度比 7.6%△ 2 月区学力調査（再） %	各種研修会・OJT 研修 授業改善への取り組み 花丸教室の充実 家庭学習の徹底	○

目標実現に 向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
小中連携により 教員の授業力を 向上させること で児童の学力向 上を図る。	学校評価アン ケート「学習に 関する項目」： 肯定的な回答 90%以上	教科部会ごとに「主体 的・対話的で深い学び」 をテーマとして授業研 究を行う。	年 6 回の研究交流 4 回の研究授業 小学校 3 回 中学校 1 回 各分科会 2 回	分科会ごとに 連携を深めた。 より小中の系 統性を追究す ることが課題。	○
板書計画・ノート 指導の改善 補習教室・そだち 指導の充実	教員授業評価 アンケート・授 業に関するア ンケート：肯定 的な回答 90%以 上	足立スタンダードによ る授業を徹底する。SP 表や学力ポートフォ リオを活用し児童への指 導に生かす。	足立スタンダード 96.5% 学力ポートフォリオ 100% 98.2%の肯定的評価 昨年度比 0.3%△	若手教員は足 立スタンダードに則った授 業で着実に授 業力向上を図 っている。	◎
楽しく、挑戦した くなる授業の創 造	授業診断アン ケート・授業に 関するアンケ ート：肯定的な 回答 90%以上	「主体的・対話的で深い 学び」の推進と若手教員 の育成を推進する。	校内研究では年間 8 回の研究授業を展開 85%の肯定的な回答 昨年度比 6.6%▼	研究授業以外 に日常的に授 業を見合う場 を設定する必 要あり。	○

重点的な取組事項－２ 児童がより安全に、安心して学ぶことができる環境を確立する。

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
児童にとって安全・安心な学校生活を確立する。	保護者アンケート「安全・安心に関する項目」：肯定的な回答 90%以上	各項目 93%以上の肯定的評価を達成 いじめ防止 93.6% 施設設備 93.7% 心を育てる 96.0%	いじめ防止委員会によるいじめ解決率 100% 校舎外壁改修工事 トイレ洋式化工事 道徳の教科化への研修	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
いじめのない学校生活の充実	いじめ解決率 100%	いじめ相談箱や HyperQ-U 検査によるいじめの早期発見及び早期解決	いじめ解決率 100% 保護者アンケート「いじめ防止の取組」：93.6%の肯定的評価 昨年度比 同率	いじめ防止委員会にて即対応・即解決 組織的対応が功を奏する。	○
安全・安心な学校の充実	学校施設の安全に関するアンケート：肯定的な回答 90%以上	日々の施設点検 施設の不備に関する早期改修	93.7%の肯定的評価 昨年度比 2.1%▼	外壁・トイレ改修工事、体育館照明工事が無事完了	◎
子供の心を育てる生活指導・特別活動の充実	生活指導・特別活動に関するアンケート：肯定的な回答 90%以上	縦割り班活動の充実 体験活動の全体計画の改善 生活振り返りアンケートの活用	96.0%の肯定的評価を達成 昨年度比 1.3%▼	特に人とのかかわる活動を意図的・組織的に展開していく。	◎

重点的な取組事項－３ 保護者や地域と共に児童を育む学校づくりを進める。

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者や地域との連携を図り、教育活動を進める。	学校評価アンケート「家庭や地域との連携に関する項目」：肯定的な回答 90%以上	肯定的評価 保護者連携 96.0% 開かれた学校 96.9% 幼保小中高 95.9% 昨年度比 0.2%～1.6%△	HP による情報発信が効果的であった。より深い連携を構築するために情報発信に工夫を凝らす。	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者との共育体制の確立	「家庭や地域との連携に関する項目」：肯定的回答 90%以上	授業参観・保護者会の内容の改善充実	学校公開参観率 58% 授業参観出席率 56% 保護者会出席率 54% 昨年度比ほぼ横ばい 保護者会のみ 4%△	出席率の向上は引き続きの課題。内容の充実と共に情報発信に努める。	○
「開かれた学校づくり協議会」を中心とした協働体制の確立	「家庭や地域との連携に関する項目」：肯定的回答 90%以上	各部活動への協力 各学年の活動との連携	「開かれた学校づくり協議会を中心とした地域との連携を図っている。」肯定的回答 96.9% 昨年度比 2.5%△	各活動の紹介等、保護者に向けての情報発信が必要である。	◎
子供の夢を育む周辺教育施設との連携体制の確立	「幼保小中高との連携に関するアンケート」：肯定的な回答 90%以上	こども園・保育園・高校との連携の充実 小中連携の強化	「幼保小中高との連携に関する項目」：肯定的回答 95.9% 昨年度比 0.5%▼	日常的交流を深め、マンネリ化に陥らない連携のあり方を模索する。	◎

3. 学校活動全般について

「開かれた学校づくり協議会」を核として地域・保護者の皆様には、様々な教育活動へのご協力・ご支援をいただき、心から感謝しています。お陰様で子供たちは、豊かな体験や学びを広げ、深めることで、心も体も健やかに成長していることを感じます。

子供たちは、地域の方々とのふれあいや交流を通して、学校や家庭だけでは学ぶことのできない大切なものを学んでいます。今後とも、学校・家庭・地域が三位一体となって子供たちの成長を見守っていきたいと考えます。

学校における「縦割り班活動」に加え、放課後子ども教室「中川東きらりクラブ」・サタデースクール等の活動は、学年や年齢を超えた子供たちの交流の場となっています。

学校としては、来年度も引き続き「児童の学力向上」に力を入れて推進してまいります。
さらに、いじめ0・不登校0を目指して全教職員が協働して取り組んでまいります。